

Memory

作詞者 ナン(Trevor Robert Nunn, 1940ー)。イギリス生まれ。演出家。ケンブリッジ大学卒業後、ロイヤル・シェイクスピア・カンパニーに参加。数多くの舞台演出を手がける。『キャッツ』の他、ロイド・ウェッバーと組んだミュージカル作品多数。
作曲者 ロイド・ウェッバー(Andrew Lloyd Webber, 1948ー)。ロンドン生まれ。音楽一家の中で幼少より種々の楽器に親しみ、作曲も始める。オックスフォード大学中退後、王立音楽院に進み、その後はジャンルを超えた楽曲センスでミュージカル作品を中心に活躍。ロック・オペラ『ジーザス・クライスト・スーパースター』、『エビータ』、『オペラ座の怪人』などがある。

楽曲解説

イギリスの詩人T.S.エリオットの詩集をもとに作られたミュージカル『キャッツ』の中の代表曲。都会のゴミ捨て場に集まった個性豊かな猫たちが、年に一度の舞踏会で夜通し歌い踊る。その中から天国で永遠の命を授かる一匹「ジェリクル・キャット」が選ばれるという。薄汚れた姿となった元娼婦の猫グリザベラが情感たっぷりに歌うのが、この「メモリー」である。

12/8拍子のロッカ・バラード(rock-a-ballade)で、♩を1拍とした大きな4拍子ととらえるとよい。『キャッツ』は1981年ロンドンでの初演以来、世界各地でロングラン公演を記録。日本でも劇団四季による公演が知られている。

取り扱い上の要点

- 英語歌詞の意味を理解し、正しい発音で気持ちを込めて歌う。
- 12/8拍子の拍のとり方を理解し、大きな4拍子を感じながら歌う。一時的に10/8拍子や6/8拍子に変わるところに注意。特に10/8拍子のとり方が難しいので、歌詞と合わせてよく練習すること。
- DVDなどで『キャッツ』を鑑賞するのもよい。

(大橋悦子)

原語歌詞の対訳…本書p.76 伴奏譜…別冊p.11

Can You Feel the Love Tonight 愛を感じて

作詞者 ライス(Tim Rice, 1944ー)。イギリス生まれ。作詞家。ミュージカル作品を多く手掛け、『ジーザス・クライスト・スーパースター』『エビータ』『美女と野獣』などのヒット作がある。

訳詞者 片桐和子。作詞家・訳詞家。東京音楽大学ピアノ科卒。映画音楽やミュージカルの訳詞多数。

作曲者 エルトン・ジョン(Elton Hercules John, 1947ー)。イギリス生まれ。シンガー・ソングライター。4歳からピアノを弾き始め、主にピアノの弾き語りのスタイルで演奏活動を行っている。1998年、功績を称えられ、ナイトを叙勲される。

楽曲解説

楽曲の概説は教科書p.14のとおり。『ライオン・キング』は原作のアニメーション映画(1994)に続き、劇場用ミュージカルとして97年アメリカで初演された。以来、98年の東京(劇団四季)をはじめとして世界中に広まり、各地でロングラン公演を続けている。この歌も、ミュージカル版でも同様に歌われている。

それぞれのキャラクターが語るように歌う部分と、コーラスによる「Can you feel the love tonight,~」以下、力強く伸びやかに歌われるサビの部分対照的。最後にF調から1音高いG調に転調し、力強い*f*で歌われるCodaは、愛する気持ちの高まりを印象的に表現している。

取り扱い上の要点

- 『ライオン・キング』の中でこの曲が歌われる背景や、それぞれのキャラクターの性格や特徴を理解した上で歌うとよい。
- それぞれのキャラクターが歌う部分と、コーラスの部分の歌い方を工夫し、いきいきとした表現を目指す。
- 『ライオン・キング』を觀賞したり、エルトン・ジョンの他の作品を聴いてみるのもよい。

(大橋悦子)

原語歌詞の対訳…本書p.78 伴奏譜…別冊p.17